

3 人工呼吸器関係の事例 ～気管カニューレについて～

発生時の状況と経過

児童の上衣の首元が唾液の流れ込みで濡れたので着替えさせた。看護師 A が児童の濡れた上衣を脱がせ、着替え用の上衣を頭部から被せて、気管カニューレと人工呼吸器の接続部分である回転コネクタを上衣の下で外し、首元を通してから再接続した。

左上肢を袖に入れるため上衣を引っ張って左上肢を袖に通した時、人工呼吸器の換気音が聞こえないことに気付いた。気管切開部を確認すると、気管カニューレの固定紐はしっかりと固定されていたが、カニューレの先が抜けた状態であった。

発生時の対応と処置

看護師 A は、抜けたカニューレをすぐに再挿入した。挿入後に人工呼吸器の換気音と胸部の動きを確認し呼吸が確保できたことを確認した。看護師 A は、教諭 B に保健室への応援要請を依頼し、教諭 C には管理職への連絡を依頼した。そして、駆け付けた看護師 D と共に、児童の呼吸状態を確認した。到着した主事には、状況を説明した。主事は保護者に電話で状況を説明し、病院を受診することを連絡した。受診後、医師から「気管カニューレの挿入部の出血がなく、呼吸音もよい。きれいにカニューレを入れてもらっているので問題ない」と言われ、児童は学校に戻った。保護者は病院で、主治医から処置の説明を受けた。

看護師 A は、児童の下校時に保護者に直接状況を説明し、謝罪した。

考えられる原因や背景

本児は、左に顔を向けると下顎横の唾液を受けるタオルに隙間ができ、頸部の下に唾液が流れ込みやすい。今回、経管栄養の注入時に左に顔を向けていた。経管栄養の注入中には、消化管の動きが活発になるため唾液の分泌が増加する。そのため、上衣が唾液で濡れた。

本児は左上肢に関節拘縮があり、可動域が狭い。着替え用の上衣が小さめだったこともあり、上衣を左側に引っ張らないと左上肢を袖に通すことができなかつたため、上衣を左側に引っ張りすぎたことにより、カニューレが上衣に引っ張られて抜けてしまったと考えられる。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・着替える頻度を減らすため、唾液の流れ込みで衣服をぬらさないように、体位とタオルの当て方を工夫する。
- ・保護者からより安全な更衣の方法を確認し、職員間で共通理解する。
- ・着替えるときには必ず気管カニューレを確認する担当者を決める。

ポイント！

- 着替えの際、左上肢を袖に通すときは、仰臥位で左上肢を水平位置で曲げてから垂直に曲げて、袖に通す。(保護者)
- カニューレは抜けることを前提として、処置や着替えをしましょう。